

常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年4月9日(金)

◇ 常磐東の春

桜階段のソメイヨシノは花びらを落とし、代わって新緑の若葉を備えはじめた。遊具コーナーに視線を移すと、ついこの前までは丸裸で枯れ木のようなだった銀杏も若葉を備え、主役を張る準備を整え始めた。いずれの若葉も若草色で初々しい。艶のある若葉は、まさに新入学・進学 of 今の季節にぴったりである。

グラウンド越しに臨む常磐の山並も、この時期特有の様相を呈しはじめた。



左が現在、右が2月の常磐東の山並み。注目したいのは、山の色合いである。2月の雪をかぶったように白く見える部分は、葉を落とした幹の色。この木々が一斉に新芽を息吹くことにより、白が若草色に変わるのが現在だ。赤➡は形状から見取れるように、同一の樹木。一年中深緑色の常緑樹だ。

さて、若草色の若葉は、数週間で緑を濃くする。現在の「若草色」と「深緑色」が混在する特有の色合い。今、この時期にしかお目にかかれない貴重な姿なのだ。

自然に感化され、一斉下校の際に子供たちに伝えてみたが、きょとんとしている。そう、登校時に毎日見ている「あたりまえ」の常磐東の春の姿ということ。

納得しながら自分に問いかけてみたが、昨年目にしているはずの景色の記憶が全くない。仕事のせいにはいけないが、たどり着くところ「余裕がなかった」というところか…。いや、そうではない。今では普通にできる「景色に目を向ける感覚」が養われていなかったこと。そして、「景色からエネルギーをもらう尊さ」に気付いていなかったからである。

鼎(かなえ)橋を渡った法面にある石碑「緑と生きる」。子供たちの素直で豊かな情操は、常磐東の自然によって育まれることを、1年経った今、実感している。

